

福島県PTA連合会会報
第93号_H26. 03. 14

PTAふくしま

第 93 号

福島県PTA連合会
編集／調査広報委員会
印刷／泉印刷所

「子どもたちのリフレッシュ事業」から



劇団四季による公演

「桃次郎の冒険」



〔提供 福島市小中学校 PTA 連合会〕

「子どもを見る眼」

福島県教育庁社会教育課主幹

永瀬 功一

自分の良さを知り、子どもたちには自信をもって将来の夢を叶えてほしい。だれもが願っていることだと思えます。その手助けができるようにするには、どんなことを心掛けて子どもと関わっていけばよいのでしょうか。少し、そんなことを考えてみようと思います。

法隆寺や薬師寺の宮大工として知られる西岡常一さんは、その著書『木に学べ』の中で、「木を買った。山を買え」と昔から言われてきたと書いています。大工ですからたたくさんの木を買うわけですが、「山を買え」とはどういうことでしょうか。

この意味は、切り取った木を買っても本当の活かし方は分らない、例えば風当たりが強い場所や日当たりの具合が違う場所です。育っている環境を見ることが大切なのだそうです。

一般的には、日当たりの良い場

所で、癖が無く真っ直ぐに育った木だけが良いように思いますが、実は、日当たりが悪い北側で育ったり、ねじれたりしている木であっても、その癖を理解していれば、逆にその木でしか活かすことができない使い場所があるということなのです。だから、木の良さを本当に活かすためには、「山を買え」なのです。

このことは、人の育て方にも共通するのではないのでしょうか。まさに親や教師が、子どもを見るとき、ある一面だけを捉えて決めつけてしまうことなく、西岡さんのような眼や心を持って子どもたちを見てあげられれば、子どもが本来持っている良さを認め、伸ばしてあげることができるのではないのでしょうか。でもそれは意識していないと難しいことだと思えます。ですから、そんなことを心掛けて子どもたちとは関わっていきたいものです。

県P連活動スローガン

子と親とが 共に育つ PTA活動を

「水俣との交流事業」

1. 目 的

3. 11発生の大震災、その後の原発事故により、私たちの生活は一変し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わってしまった。原発事故による健康不安、風評被害等を抱えながら、災害や差別に負けずにふるさとに誇りを持ち続けてほしいとだれもが願っている。

福島で起きていることは、水俣病のこれまでの経験と重なり合う部分が極めて多く、水俣病の教訓を発信している水俣市の子どもたちと福島の子どもたちが交流することは、ふるさと「ふくしま」でどう生きていくか、自分の住んでいる地域をどうしていくかを考えていくことにつながり、これからの「ふくしま」を担う子どもたちにとって貴重な経験となることが期待できる。

地域の環境保全の大切さ、人としての生き方、地域の風土と暮らしを体験できる「環境学習都市」を目指している水俣市で、本県の中学生在が研修・交流を通して、視野を広める。

2. 主催・後援

(1) 主 催 福島県 PTA 連合会

(2) 後 援 福島県教育委員会、福島県小学校長会、福島県中学校長会

3. 研修場所 熊本県水俣市・熊本市

4. 研修期間 平成25年12月21日(土)～24日(火) 3泊4日

福島・水俣交流事業計画

○参 加 者 【福島県 PTA 連合会】

生徒40名／県中学校長会(4)／県教委(2)／PTA等(12) 合計 58名

○事業日程

	時 刻	内 容	備 考
12/21 (土)	11:30	市役所集合・集発	出迎え(大型バス 2台)
	13:50	熊本空港出迎え	到着後、待合せ室へ移動
	14:00～	説明会(サプライズ①)	空港団体待合せ室
	14:40	空港出発	
	15:30～	熊本城着・見学	城内・本丸御殿
	16:30	水俣へ出発	
12/22 (日)	18:30	水俣着／宿泊施設へ	スーパーホテル City水俣
	18:45～	歓迎レセプション(食事会)	会場: あらせ(サプライズ②)
	20:30～	情報交換会(懇親会)	会場: がんぞー
	7:30	宿泊施設出発	
	7:40	市役所	水俣市内中学生同行(30名)
	10:30	阿蘇中岳火口見学	ロープウェイ
	11:00	草千里・米塚	
	11:30	阿蘇ファームランド	昼食・休憩・お土産
	13:00	阿蘇出発	
	16:00	水俣着	
12/23 (月)	16:20～18:00	水俣・福島交流研修会	市公民館大ホール
	18:30～	生徒交流会(食事会)(サプライズ③)	もやい館ホールに出店調理(ひげの店)
	8:15	市役所集合・出発	市P同行者
	8:30	宿泊施設出発	
	9:00	水俣病資料館	館内施設説明・映像鑑賞
	9:30～11:00	水俣病語り部の会 館内見学	講話・質問会
	11:00～	ごみ分別体験	クリーンセンター
	12:00	昼食	M'sシティーレストラン
	13:00～	環境学習(リグラスアート作成) (サプライズ④)	県環境センター
	14:30～	記念植樹(8本)	エコパーク内(ソメイヨシノ)
	15:30～	グループミーティング(まとめ)	もやい館ホール
	18:30～	お別れ会	会場: 福田農場(スペイン村)
12/24 (火)	8:45	宿泊施設出発	
	9:00～11:00	グループ発表会(サプライズ⑤)	もやい館ホール
	11:20	水俣市出発(サプライズ⑥)	バス内で昼食(弁当)
	13:00	熊本空港着	
	14:25	熊本空港発	

※阿蘇中岳火口見学は、悪天候(積雪とガス発生)のため、「阿蘇火山博物館」見学に変更

特集

「水俣との交流事業」

昨年十二月二十一日から二十四日までの三泊四日の日程で、熊本県水俣市での「水俣との交流事業」が実施されました。

各都市P連から推薦された四十名の中学一・二年生が参加し、多くのことを学んできました。今回、その報告をいたします。

「水俣との交流事業」 実施経過

平成25年

6月7日
第1回評議員会で、事業の了承

7月9日
役員・総務委員会合同会議で具体的な事業の検討開始

8月24日
水俣との打合せ(受入態勢等について)

9月17日
実行委員会(役割分担等について)

9月25日
県教委、県小・中学校長会へ後援申請
募集要項を各都市P連宛に送付し、派遣者の推薦依頼

10月22日
第2回理事会で、実施計画了承

11月23日
事前研修会

12月21日(土)～24日(火)
「水俣との交流事業」実施

平成26年

2月22日
「水俣との交流事業」実施報告会

2月27日
第2回評議員会で、事業終了の報告

歓迎レセプション



宮本勝彬水俣市長 歓迎のあいさつ



何を食べようかな

水俣の中学生との交流研修会



「水俣病犠牲者の慰霊碑」の前で



「エコパーク水俣」と今は公園になっているが、この下にはメチル水銀が埋め立てられている

平成25年12月21日

「水俣との交流事業」歓迎レセプションでの参加生徒代表あいさつ

皆さん、こんにちは。私は、福島県福島市立吾妻中学校二年生の鈴木小春です。

私たちは、福島県 PTA 連合会の「水俣との交流事業」の参加者として、県内各地から集まった40名の中学生です。ここ水俣市では、環境づくりをした人々の高い意識を学び、それをこれからの福島の復興にどう生かしていくかを考えていきます。

皆さんは、「福島」と聞くと何を思い浮かべますか？

桃、赤べこ、野口英世、新島八重とか…。福島は自然が豊かで、とても住みやすい県で、果物に野菜、そしてお米など、おいしいものがたくさんとれる県でもあります。

しかし、あの3月11日以降、「福島」は変わってしまいました。

私は、そのとき小学校5年生で、今までにない恐怖と不安を味わいました。

おいしい果物や、栄養満点の野菜など、福島でとれたものは放射能の検査を受け、どんなに愛情を込めても、基準値を上回れば処分されてしまいます。

基準値を下回っていても、「福島産」と書かれたラベルを見ると、手を止めてしまうという人も少なくはありません。

「福島は放射能の町」その言葉を耳にするたび、私は悲しくてたまりません。未だふるさとに帰れない人も大勢います。

でも、全国各地からの温かい応援と、復興に向けて日々取り組んでくださっているたくさんの方々のおかげで、少しずつ活気を取り戻しているのも現実です。

私の中学校では、11月26日の給食に、JA 熊本の宇城からの寄付でみかんを頂きました。とても甘くて、おいしかったです。

私が感じている福島の課題は、「震災の風化」です。ニュースでもあまり震災のことが流れなくなり、私たちの記憶からなくなってしまうのではないかと、そう思うようになりました。

けれども、同じような立場にあった水俣は違ったということも、水俣派遣事業の事前研修会で知りました。水俣から3名の方がいらっしゃって、今現在の水俣の様子や水俣病について詳しく教えていただきました。

水俣の皆さんは、水俣病を日本に、世界に発信し、みんなで協力して素晴らしい環境づくりをされていて、とても驚きました。

私は、授業や本などで水俣病について知る機会があったのですが、そのほとんどが水俣病は怖い、苦しい、悲しいといったことしかなく、私たちは「そうなんだ」で終わっていました。

ですが、今回の水俣との交流事業で現在の水俣を知り、理解を深めると共に、今後の福島の復興、発展に役立てたいです。

私たちは今、すべきことは何か…。このことをしっかり考え、学校に戻って、福島から発信していきたいと思えます。

そして、この事業を実施するにあたって、応援して下さった多くの方々の期待に応えられるよう、一生懸命に学ばせていただきたいと思います。

4日間、よろしくお願いします。

福島市立吾妻中学校 鈴木小春

水俣の環境教育について学ぶ



水俣市ではゴミを24種類に分別している



水俣病記念館見学

～ エコパークに記念植樹 ～



語り部の緒方正実さんから話を聞く



グループごとの発表に向けて

～ 水俣からのメッセージ ～

苦しいでき事や、悲しいでき事の中には
幸せにつながっているでき事がたくさん
含まれている。
このことに気づくか気づかないかでその
人生は大きく変わって行く。
気づくにはひとつだけ条件がある。
それはでき事と正面から向かい合う事
である。

水俣病資料館・語り部 緒方 正美

習字の部入賞者

▼小学校の部

◆最優秀賞(一年) 湯田百佳(小金井)
◆二年 目黒 倫(白河二)
◆三年 梅津柚花(平二)
◆四年 歌川さくら(鶴城)
◆五年 大西莉央(平二)
◆六年 菅原未夢(みさか)

◆優秀賞(一年) 佐藤朱真(みさか)

櫻井 倭(福大附属 村田ともか(白河二)
二年 齋藤ほのみ(大平)
石塚 望々花(福島・大森) 斧田明花音(須賀川二)
三年 小野里英絵(棚倉) 鈴木龍之介(西郷・熊倉) 成井 菜衣(白河二)
先崎琉雲(夏井二) 菅野千夏子(平二)
四年 目黒泰涼(白河二)
小田切咲彩(喜多方二) 明珍 つぐみ(五箇) 青柳遊羽(松長) 安積 凜々子(好間二)
五年 横山 心(城西) 齋藤和奏(五箇) 齋藤海杏(白河二)
澤入美優(白河二) 笠原 優(平田)
六年 青木聖菜(白河三) 小田 切大也(喜多方二) 芳賀晃浩(五箇) 佐藤玲奈(渋川) 有賀 楓(釜子) ◆優良賞(一年) 鈴木翔太郎(西郷・熊倉) 桑澤那奈(白河二) 蛭田佳奈(棚倉) 迎 彩花(石川二)
二年 大

第37回子ども災害事故防止習字・ポスター展

三十七回を数えた今回も、温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。
関係の先生方のご理解・ご協力に感謝いたします。

審査の先生方(敬称略)

○習字

丹治 英郎(元福田小学校長)
鈴木 幸子(元蓬萊小教諭)
丹野 栄(元杉田小学校長)
○ポスター
穴澤 耕二(蓬萊小学校長)

みち
めぐろりん

▲小2年 白河二小 目黒 倫 さん

花火
歌川さくら

▲小4年 鶴城小 歌川さくら さん

整理
鳴瀬裕美

▲中1年 会津学鳳中 鳴瀬 裕美 さん

竹佳歩(福大附属 佐川楓雅(石川)
宮尾峻平(白河二) 緑川奈那(棚倉)
三年 渡辺楓果(石川) 高橋 瑛(白河二) 緑川綾音(滑津) 有賀美羽(阿

参加者の感想

～水俣で学んだこと、たくさんのありがとう～

3班 山口 萌 (石川町立石川中学校 2年)

私は今回、水俣との交流事業を通して、たくさんのことを学びました。そして、とても楽しい4日間を過ごすことができました。

この4日間で私が特に心に残ったのは、語り部の会の緒方さんの話です。原因不明で祖父が死んでしまったり、父の魚を買ってもらえなかったり、緒方さんはとてもつらい経験をしながらでも前向きに水俣病について話をしていました。そして「自分がまず、しっかり生きて、残った力を人につかう『正直な生き方』が1番大事、事故や災害から正面に向き合うことが大事」とおっしゃっていました。今の福島に、私は正面からあまり向き合っていないかなあと思いました。原発の事故が起こったことは、どうすることもできません。だから、これからは、福島に起こってしまったことに、正面から向き合い私達が発信していきたいと思えます。エコパークの「もやい直しの植樹」には、魚・人・猫・鳥のたくさんの思いがありました。私も水俣の人に負けないよう、たくさんの思いを大切にしていきたいです。

私はこの事業からたくさんのかたちを感じました。その中でも、水俣の人々のあたたかさにとっても感動しました。福島のかたちの友達に出会えたことにも感謝です。一生心に残るいい思い出ができました。「思い出」となってしまうことがさみしいですが、今回の交流の場をつくってくれた福島のかたちのみなさん、水俣のかたちのみなさん本当にありがとうございました。そして、一緒に活動したみんな、ありがとう！たくさんのかたちに支えられているなあと思いました。

貴重な経験

2班 大竹 駿輝 (福島市立渡利中学校 2年)

僕は、今回の「水俣との交流事業」に参加して、すばらしい体験をすることができました。

最初は緊張の連続でした。でも時間が経つにつれて会話が增え、お互いの意見を活発にかかわることができました。

水俣の中学生との交流会では、水俣市で取り組んでいる活動報告を聞きました。中学生が協力して、ゴミの分別をしていたり、地域の情報発信をするための委員会を作ったり、独自の工夫の説明を聞くことができました。

今回の事業に参加した僕たちも、意見を出し、自分たちにできることは「何か」、討論しました。

それは、自分たちで正しいことを伝えていくことです。

福島は、放射能で汚染されてしまい、県内外の人から差別を受けるかもしれません。でも、正しい情報発信をすることで、現状を理解してもらえんと思います。

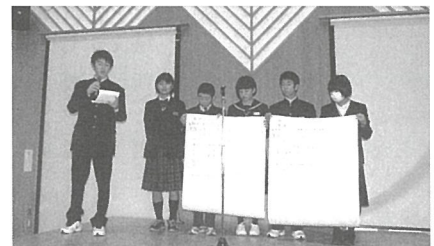
僕は、生徒会で新聞などをつくり、正しいことを伝えていきます。水俣の経験をくり返さないことが、僕たちの使命だと思います。



水俣第二中学校のみなさんが私たちを見送ってくれた



水俣第一小学校のみなさんからのクリスマスプレゼント



グループ発表



▲小2年 中央台南小 小松 星愛さん

ポスターの部入賞者

▼小学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 佐藤 詩(須賀川二)(二年) 小松星愛(中央台南)
- 《三年》 武田紫乃(須賀川三) 《四年》 邊見愛紗(釜子) 《五年》 室井聖真(神指) 《六年》 菅野 丈(玉野)
- ◆優秀賞(一年) 瓜生一心(喜多方二)(二年) 秋元翔太(中央台南) 《三年》 堀江史恵南(中央台南) 《四年》

- 武隈(平野拓心(小野田) 本田和愛(坂下東) 菅野薫里(福大附属) 《四年》 石井きらら(阿武隈) 鳴原希和(須賀川二) 福田心花菜(白河三) 梅宮涼乃(みさか) 大山奈々花(柏城) 岩崎ひなた(郡山・高野) 山口 董(石川) 《五年》 穂積志音(関辺) 大竹由依(福大附属) 高倉大和(中央台南) 円谷真生(石川) 大内流羽(本宮・白岩) 小坂橋梨音(猪苗代) 佐藤由芽(長沼) 《六年》 渡邊歩夢(玉井) 稲垣智美(平二) 田村玲奈(松長) 三輪陽菜多(浅川) 土田 凜(棚倉) 国



▶中3年 浅川中 山崎 萌花さん

▼中学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 伊藤 綾(湯本二)(二年) 増田千晴(喜多方二) 《三年》 鳴瀬裕美(会津学鳳)
- ◆優秀賞(一年) 遠藤生茂(沢田) 《二年》 浅野 藍(中島) 《三年》 松川理沙(矢吹)
- ◆優良賞(一年) 本郷葵生(古殿) 《二年》 松川佑香(矢吹) 《三年》 大竹由子(喜多方二)

▼中学校の部

- ◆最優秀賞(三年) 山崎萌花(浅川)
- ◆優秀賞(二年) 栗原亜美(浅川)
- ◆優良賞(二年) 金川颯希(矢祭)

- ◆優良賞(一年) 白井迪悠(西郷・熊倉) 《二年》 鈴木南帆(小玉) 《三年》 斎藤里桜(塩川) 《四年》 遠藤颯花(鶴城) 《五年》 遠藤璃空(須賀川二) 《六年》 梅津 葵(須賀川二)

安全互助会から

すでに平成二十六年度安全互助会への加入案内をしたところです。確認いただきたい点をお伝えいたします。

平成二十六年度は、昨年同様の日程で進めます。

◎今後の日程等

◎加入申し込み締切

………三月十日(月)

※まだのところがありませんでしたらお急ぎください。

◎「会員登録」「事務取扱概要」の送付

………四月中

※このとき、事故報告用紙も送付します。

◎会費納入………五月末日

◎会費引落とし………六月三日(火)

※ただし、口座引落としの手続きを

している学校・園のみ

※新たな会費の口座引き落としを希望される場合は、本会宛にご連絡ください。

◎事故報告について

① 傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準となります。

二十六年三月三十一日までに発生した事故については、二十五年会の会員登録番号・加入コース・学年で報告してください。

② 二十六年四月一日以降のケガについては、二十六年度の会員登録番号となります。

③ 「事故報告書」に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見られます。そのたび

◎保険金請求について

学校・園からの事故報告に基づき、保険会社から請求者である保護者宛に請求関係の書類一式が送付されます。

「福島県PTA安全互助会」とは記載されていないので、届いていないという連絡を受けることがあります。

その場合は再送付できますので事務局までご連絡ください。

現在、十八歳未満の子どもの医療費は無料となっていますが、本制度は、あくまで保険制度であり、医療費とは別に支払われるものです。

面倒がらずに請求手続きをするように、担当の先生方からも、保護者の方に伝えてください。

編集後記

三・一一から丸三年が経過します。いまだに原発事故の収束の見通しが立たない中、過酷な環境での生活を強いられている方々が多くおられます。

四月には、新たに四校が再開します。それらの学校に対して、県PTA連合会として、再開する学校に支援をしていきます。

しかし、それでも、双葉地区内の六校は、臨時休業のままだです。

一日も早く、子どもたちの笑い声が聞ける生活に戻りたいと願うものです。

(T・H)

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災

サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

